

中斎塾 東京フォーラム  
平成 28 年度 第二回講話

平成 28 年 2 月 13 日  
於 湯島聖堂

### 総合的直観力

初めての方がおられるので、季刊誌『知足』の説明をいたします。「総合的直感力の人間学」と書いてありますが、実に欲張りな文章です。

「総合的直感力」は、木内信胤先生がおっしゃられた言葉です。木内信胤先生の書かれた『國の個性』という本は 30 年前に書かれています、その本の中に「アメリカは凄い勢いでこれから転落する。アメリカは最初できた時はとても良い国で、素晴らしい国だった。ところが途中で訳の分からない得体の知れない化物に変わった。世界をとて悪くする国に変貌してしまった。グローバル社会が良いとか、工業化が良いなんていうのは駄目だ。人間社会がどんどん悪くなる一方で、アメリカがその中心になっているからアメリカは反省して生まれ変らなければいけない」ということが書かれています。

木内信胤先生が「アメリカは分析をやりすぎたがために世界を段々だめにしている。総合的な物の考え方が必要で、物事は閃きによって動いているものだから、閃きで世の中を良くするためには総合力が必要だ。それを私は総合的直感力と呼ぶ」と、説明があります。では、これからどう世界の国々は生きていけばよいのかと言いますと「それぞれの国の特徴を活かした生き方でなければいけない」と、30 年前の話です。

今回ご紹介する書籍『國の個性』を、私は持ち歩いて再度読み合わせをしております。

### 人間学

これも図々しいなと思いますけれど「人間学」という言葉は、安岡正篤先生の物の考え方の中で出てきます。陽明学をベースにして考えていったので人間学という言い方をしています。この言葉の中に、とても中身の濃い詰まった言葉が入っています。

例えば、高橋さんは奥さんのことを凄く惚れましたか？それとも、ちょっとだけ惚れました？

一凄く惚れました。

どうして惚れたって言えますか？あれが良いこれが良い、それとも全体的に良いからでしょうか？…訳が分からないですよ。訳が分からないところが人間の人間たる所

以でございます。

木内信胤先生曰く「何かが良いと思った時に、またはこれを進めようとした時に、これこれこういう理由があるから、これは良いという物の考え方は取るべきではない。何だか分からないけれども良いと思う。これは宗教的な悟りだと思う」ということです。ですので、今の答えは「宗教的摂理に導かれた答えです」と言うと、とても良いでしょう。

## テーマ

### アメリカ経済—危機の本質

総合的直感力の中に木内信胤先生の考え方の凝縮したものがあります。それから知るという知足は、先程の話で各国が素晴らしい国になっていくためには、アメリカ型のグローバル社会や工業化・近代化を進めてとは言わないほうがいい。それぞれの国のそれぞれの個性があるから、その個性を活かして発展していけばよい。みな一律平等にお金持ちになっていくなんてことは考えない方がよいと木内先生は説明しています。

人間は、お師匠さんを持たないと人間らしくならない。お師匠さんの第一等が、天地自然を師にすることが出来た人。第二等は素晴らしい人物、惚れこめる人物、人格をもって素晴らしいと思う人物に出会うこと。第三等は素晴らしい書物に出会えば、素晴らしい人生が送れるということで、お師匠さんの一番目は天地自然、二番目が素晴らしい人物、三番目が素晴らしい書物という順番でお師匠さんを持つことを進めてきました。私は幸いこの人格を持った木内信胤先生と出会いましたので、そういう人生を進んでいるなという実感があります。

ちょっと質問です。

・人間の社会は平等という言葉が当たり前。平等は良いことだと世界に広がっていますけれども人間が平等であるべきだと思っただけで、むしろ方どれぐらいおられますか？

(有難うございます)

・人間社会は不平等の社会。人類は不平等だと思っておられる方？

(有難うございます)

木内信胤先生は「人間の社会は不平等なものであって、平等なんて考えてはいけませんよ」と、明確に言っておられます。

木内信胤先生が、楽しい遊びのひとつと言われたもので、ちょっとだけお話しをしますと、人類がこの世に誕生をして五千年として考えると、最初の二千五百年は 1 日目で人類に知恵がついて段々人間らしくなってきたところに、お釈迦様や孔子が出てきて宗教性をおびた人が続々と誕生した。ということで二千五百年ぐらいは人類に希望や未来をもたら

す、そういう幕開けが1日目。

2日目の二千五百年は、人間がその教えを実行しようとして一生懸命に頑張っていて疲れてくたびれてしまった。それが次の二千五百年である。我々は今3日目の夜明けを迎えようとしている時期であるということが30年前に書かれた本の中に入っています。

## 知足

今の世の中、何か色々な物やお金をたくさん持っているといいとありますが、物量的な物が増える時には、増やすなどは言わなくても、それには必ず精神的な価値が必要である。そしてそれに気がつくためには、宗教的な摂理、宗教的な物の考え方が必要です。それは何々教という具体的な宗教ではなく、日本人が持っている宗教性や宗教的な考えかたが必要です。私はこれを「足るを知る」という言葉で表現をさせていただいております。

知足、ほどほど。それで「ほどほどで良い」と言うと「お金は沢山あったほうが良い。ほどほどとは、とんでもない」と、言う人が世の中にはいます。人によって、ほどほどは違いますけれど、ほどほどってところが良いと思います。だから宗教的な気持ちを持っていると「足るを知る」ということがスッと入ってきます。そういう欲張ったことを季刊誌『知足』の表紙に持ち込んであります。

## 紹介書籍

『國の個性』木内信胤著 プレジデント社

『カンの構造』中山正和著 中公新書

## 恒例の質問

- ・今年に入って1ヶ月間、良い日が続いたと思われる方。

夜寝る時に良い日だったなと思うと翌日良い。たまに夫婦喧嘩しますか？たまには良いと思いますけれどね。そうすると夫婦喧嘩をした後、仲直りをすると良い女房だとか良い亭主だとか、とても良いところを発見できるだろうから。

- ・今年に入って比較的、嘘をつかない日が多かった。

リップサービスでも嘘をつくとなんとなく心の中がモヤモヤしますから、嘘をつかなかつたということは良いですね。

世の中のためになるような嘘はついても良いと思いますが、政治家の二枚舌は考えかた自体よくない。それから公定歩合は嘘ついてもいいなんて、嘘つけですよ。マイナス金

利なんて出して、たまたまタイミング悪く発表したから、一瞬、世界に影響を与えたかの如く日本人に感じさせてしまったのは、ちょっとおかしい。世界の流れにたまたま乗っかってしまったというだけのことで、嘘ついてやってはいけません。サプライズをやろうとするから良くない。でも円安が進んだら多少は影響があるから、または自殺者が出るかもしれないと思って、サプライズで良い方向にもっていこうと思ったのでしょうけれども、自分で良いことをしたにも関わらず相手に悪影響を及ぼしたことの後始末は大変です。

- ・今年に入って有難うと言ひ、有難うと言われることが多かった。

「有難う」と言われることは大変です。比田井さんは有難うと言われることが多いですよ。比田井さんは女性に対して親切でしょう。

比田井副理事長ーいや優しい。

親切と優しいは、似て非なる物だからだいぶ違いますよね。有難うと言われるのは大変です。出来る限り年を重ねることに有難うと言われることを増やす。口だけではなくて、何か自分の体で行動した方が良いと思っています。

- ・今年に入って健康法を実践した方、健康法を変えた方。

最近、人間ドックに行きました。昨年はコレステロールが多いから減らすようにと言われて、「ケーキ・バター・チーズ・卵・乳製品などを控えてください」と、去年の9月に言われて、その日以来そういう食べ物を食べなかった。そしたら半年ぐらいで劇的に改善をしました。「劇的に」とは、どの程度かと言いますと「食事療法で、これだけの数値を改善した人は見たことがない」と言われました。

- ・寝る時に明日を過去形でイメージして寝た方。

この間、猪瀬理事長のところに向ったら、ナポレオン・ヒルを見直していて「これは何のことはない唯識学じゃないか」という話になって「そうですね」という話をしました。

もう一冊『カンの構造』という本も総合的直感力の違う説明になっております。これは唯識学をベースにした考え方の人が技術者の目で見ると「ひらめき」や「勘」を解説しています。とても良いと思います。そういうことが繋がってくると世俗的な形で言えば、明日のことを過去形でイメージ出来る人は、このまま本当に大金持ちになれるそうです。

- ・今年に入って自分磨きを実践している方。

やっぱり、わくわく感があるかどうかでしょう。全部ひっくるめて、わくわくするかどうか、世の中の役に立っているかどうかで考えれば良いと考えています。

## 基本哲学

### <知足>

基本哲学「知足」これは先程申し上げました。「足るを知る」という考え方が、日本にもっと広がって、自分の身につけば日本を良い国にしたいと思います。同時に他の国々にも「足るを知る」という考え方が広がっていけば、それぞれの国がそれぞれの個性で生きていく。

### 援助について

木内信胤先生は「お金で物質的な援助をするのは相手を侮辱することです」と言っておられます。「本当の意味での援助は、その人達が自立できるようにする。自分で自分の城は守り、自分で自分の食べ物は作る。自分のことは自分でしましょうという考え方とその方法をお教えすることが一番良いだろう」と、おっしゃっています。ただ単純に、お金をばら撒いて歩くのはよくない。

この間、海外青年協力隊をつくった渡邊五郎三郎先生に電話でお話しをしたら「ちょっと今、体調が悪いから来月お目にかかりましょう」という話になりました。98歳の渡邊五郎三郎先生の生き様も良いなと思います。

歴史を見たとき考えたときに、本で読み、映画やテレビで見るものは、多少入ってくるけれども、歴史のことを語る人物と会うのはやっぱり良いことだと思います。

海外青年協力隊をつくる時にどういう考えでつくったか、それがどう変わってきたか、現在はどうかということ、つくった人に会うのが一番良いし、それを発展させてきた人に会うのが良い。

歴史を体で表している人には、やっぱりどこかでお会いしていた方が良いなと思っています。

## 論語の視点

この間、私の書いた本で明德出版社に行って打ち合わせをしました。その本は増刷するので「中身をチェックして直すところはありませんか」と言われましたが、私は見る時間がとれなくて、ほとんど直さなかったら事務局の佐藤さんが調べて付箋をしたのを見て良いと思い、そのまま渡しました。

読み方の中で「禹 禩は躬ら稼して天下を有つと」と、書いてあるけれども、私が意識してこの本をこしらえた時は「禹禩」と読んでほしくないから「禹」空白があつて「禩」としました。禹という人と、禩という人は別人です。

一文字で合わせると例えば、比田井副理事長と猪瀬理事長が「比田猪」と言っていることになる感じです。「比田猪は躬ら稼して天下を有つと」となってしまうから、空間を空け

ることによって「ここは間を置いてください」とか「息を継いでください」ということが暗黙に入っています。

この原本は湯島聖堂が出している論語の教科書で、論語を素読する場合において日本で最高レベルの教科書は斯文会の『訓点論語』であると、石川梅次郎先生に教えていただきました。それならと考えて、石川忠久先生に『訓点論語』を使いたいけれど、よいでしょうか」と尋ねましたら「どうぞ」と、おっしゃっていただきました。でも見ているうちにやっぱり気になるところが出てきまして「先生、直させていただくけど、いいですね」と言ったら「うん、君の好きなようにして」とおっしゃいました。

中斎塾フォーラムでは、日本で最高レベルの『訓点論語』を活用して読みやすくしました。そして、いつでも読めるようにしておりますので、どうぞ読む時は、何でここに空間が空いているのかなと考えながらお読みくださると幸いです。でも、お子さんは読み方など気にしないで、読まれる方の読み方に合わせて覚えますから、好みに読まれると良いでしょう。読み方ひとつぐらい変わったってあまり気にすることはないと、そんな氣であります。

漢字は外国語です。外国語が日本に入ってきて、一生懸命に眺めている人達が色々考えて、読み方を勝手に作りました。そしたら、こういう読み方が元々の言葉に合うのではと、単純にそういうこととございます。日本人が勝手に読み方を考えて作って見たら、その元々の意味に合致して分かりやすくなった。だからこの字の読み方はおかしい、こうやって読むべきではないかと思ったら主張すればよいのです。時間が経つにしたがって世の中に定着すると辞典に取り上げられて、それがいつのまにか当たり前のようになる。古典を見ると試行錯誤の後、たくさんあります。ひとつの人類の知恵です。日本人の知恵です。そう思って、こうやって読むと意味が通じるなどか、腑に落ちたらそうやって読むと良い。腑に落ちなかったら敢然と、その学会に対して立ち向かってやられればよい。学者でない場合はそこまでしないで、こうやって読むのかな、一つ覚えたなで良いと思います。意味が分かって「分かりました」ではないほうが良いと思います。あっそう言うもんかな、何となくこう思ったで良いと思います。

#### <憲問十四>

【五】子曰く、徳有る者は必ず言有り。言有る者は、必ずしも徳有らず。仁者は必ず勇有り。勇者は必ずしも仁有らず。

自分が徳に溢れていると思う方、またはあの人は徳があるという人、この中でどうでしょうか？

徳に満ち溢れている人は身体中からと申しましようか、心の中から溢れて出てくる言葉

が自然と周りを感化させるような、周りの人が聞いていて、成る程と思える言葉がぼろっと言える。

そう思って「子曰く、徳有る者は必ず言有り」を読まれると良いでしょう。徳高い人になりたいと思う人は、自然とそういう言葉が出てくる。出てこなければ、まだまだだと思えばよいでしょう。

### 「言有る者は、必ず徳有らず」

議員辞職をすと言明した35歳の衆議院議員の会見をたまたま見ていたら…あの議員さんは正直ですね。追求する人も追及する人だけでも、本人も奥さんが出産する頃におつき合いをしていた人がいる。追求されたら「はい。三回会いました」と、何でそんなことまで言うのかと思いますが、なおかつ「他にお付き合いしている女性は？」と聞かれたら「はい。おります」でしょう。よくこんなことを聞くなと思うし、また答えるなどは思いますが、ここの「言有る者は、必ず徳有らず」で合わせてみれば良いでしょう。徳有る者は、嘘をついてはいけないと思っているから、逃げ回っていたと思えば、まだましですよ。平気で、ああいう場面で嘘つく人ってたくさんいるでしょう。マイクの前に立って、つい本当のことを言うから、まだましな方だと思う。

徳がある人になりたいと思ったら、必ず心から溢れてくる言葉が人の心を打つでしょう。口先上手の人間は上手だからと言って、徳があるとは言えない。聞いていて「成る程な」と、感心することを言う人は言行一致の人です。

あの議員さんの会見も、あれだけメディアが追及するというのはよくないですね。あんなことをするのでしたら、もっと世の中の流れだとか、徳に関する話だとかを流せば良いと思います。

「仁者は必ず勇有り」これは、そのままです。韓国の人で、駅のホームから落ちた人を助けて自分は亡くなった事例がありましたよね。人徳がある人は、とっさの勇気が出てくる。

「勇者は必ずしも仁有らず」勇気があるように見える人は、剛勇・蛮勇ということがありますから、勇気があるからといっても、その動機を考えた時に必ずしもどうかということです。

【六】南宮适 孔子に問いて曰く、羿は射を善くし、羿は舟を盪かすも、俱に其の死然るを得ず。禹 稷は躬稼して天下を有つと。夫子答えず。南宮适出づ。子曰く、君子なるかな 若き人。徳を尚ぶかな 若き人と。

「羿」は弓の名人。「羿は舟を盪かすも」ここを読んでいて思い出しましたが、昔、猪瀬理事長とフィリピンで川を上る時に、小さな船に乗ったら両側から綱で引っ張ってしまし

た。ああいう作業を一人でやるような力持ちが「冦」です。「俱に其の死然る」これはどちらも素晴らしい人物だったけれども死に方はあまりいいものではなかった。

禹と稷この二人の王様は、たいしたことをやっているようには見えないけれども、天下をそれぞれ統一した。

日本でいけば、現在の天皇両陛下もそうですね。でもこの頃、動きがちょっと変わりましたね。たぶん死が近いことを自覚しておられるから、それでなければあんな動きはされないと思いますが、一生懸命に色々と歩かれています。口で伝えるのではなくて、行動で示しているという感じが致します。禹と稷は、そういう君主だったのかなという気がします。

南宮适は「これは何故でしょうか」と、孔子に聞いたら何も答えなかった。南宮适が帰った後に孔子は「南宮适のような身分のある人の中でも、ああいう人間は出るんだから南宮适は素晴らしいね」と感嘆した。

論語の場合は以前から申し上げていますが、良い科白を見つければ良い。その次は人物が色々登場して想像して動いている。それが映像として表れればもっと良い。そこまでいかないでも、現在に論語を置き換えて考え、自分自身に置き換える。現在の自分に合わせて考えるというふうに読んでいく。そうすると、羿のような人はいないか、冦のような人はいないか。それから禹・稷というような人はいないか。自分はどのような人物かと考えるとよいでしょう。

それで、芸能人はよく分かりませんが、政治家はしょっちゅう出てくるから話がしやすいので、比べます。今の政治家で、こういう人と照らし合わせたらどうだろうかと思ってみる。そうすると良い悪いということが自分なりの判断で出てくる。

今の中国の中で習近平さんは、どういうポジションなのか？どういう方向に向かって進んで行こうとしているのか。それは論語の中の色々な部分で照らし合わせて見ていくと、ふっと見えてくることが多い。そう論語を置き換えていただくと良いでしょう。

## 時事評論

### 新聞を見るときの見方

今は自公政権の手を是々非々で見る。国債の動きをよく見ること。それから自然災害がこれからどんどん起きるから、自然災害に関するちょっとした記事は見逃さないことです。この三つの視点で新聞は見てください。

前に「新聞は半分半分で見ましょう」と、言いましたけれども、それはもう止めます。半分半分で見ない。新聞は物を考えるヒントが詰まっていると、そう思えば腹が立たないです。



## お金の見方

もう一度、木内信胤先生に戻りますと、木内信胤先生がこの本を書かれた時に、ひらめき、きっかけがありました。どうも今のアメリカはおかしいと思った時に、はっと気がつき、ひらめいたのは金利で考えることでした。この時 22%もの金利を払って企業がやっていける訳がないじゃないかということが最初の疑問でした。だから金利論から入った。

この間、イオンへ行ったらイオンカード 3.8%~13.8%の間でお貸ししますとエスカレーターの上に貼ってありました。ちなみに近くの銀行で一番高い金利が 1.84%でした。隣にあった郵便局の定期預金の優遇金利が 0.11%です。その銀行の優遇金利 1.84%何でこんなに違うのだろうと皆様にぶつただけで、解説はいたしません。

あの時の日銀総裁の言い方を聞いていて、嘘つきである。自分の知っていることを全部喋っていないで、人に誤解をもたらすような喋り方をしていると思って聞いていました。

以前オーストラリアに行った時に、自分で銀行に行って通帳を作りました。そして日本に帰ってきたら保管料をよこせ、金利を払え、手数料を払えと言ってきました。面倒なので解約をしましたけれども、日本もこの間のマイナス金利で、こういう時代に入るなと思いました。

物の考え方で、木内信胤先生は何故 22%なのか、それを 12%にしたのは何故か、そして 12%以下にならないのは何故か。何故かと詰めていくことが本質を追求することになる。

詰めていったら、きちんとした答えが無いことが分かった。それを更にまた詰めていったら経済学がおかしくなっていることが分かった。経済学が根本から狂った。なぜ狂ったかと詰めていったら、近代西洋文明が行き詰まりになったということがひとつ。近代西洋文明は分析と収集だから、分析ではなく、総合的な力がこれからは必要であると考えました。

世界はアメリカが今のスタイルを続けることによって転落をしていくから、このものの考え方は世に出さねばならないと使命感を持ったので、この『國の個性』という本を書かれた。これは世の中に警鐘して、警鐘の仕方も分かるように書いた。

今日はこの本の説明ですね。でも本の書き方は私も先生から教わりました。目次を書いたら、もう本を一冊書いたも同じという話がありました。私も本を書く時には目次を書く、ああ終わったなと思います。

今日はここで終了に致します。有難うございました。